

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成30年2月分）

【景況感】

景気は、一部に弱さもみられるが、緩やかな回復が続いている。

【製造業】機械工業を中心に持ち直しの動きが継続

○製造業は、主要産業の鉱工業生産指数は底堅く推移し、各企業からは好調を示すヒアリングも多く聞かれており、全体的に上向きの動きが継続している。一方、米国の金利上昇、保護貿易の高まり等の海外情勢を要因に、円高等のリスクが高まっている。

【地場産業】一部に持ち直しの動きもみられるが、厳しい状況が継続

○地場産業は、全体としては、海外製品等との競合、国内需要の低迷、原材料費高騰による収益の圧迫、人材不足の深刻化など厳しい状況が継続しているが、鉱工業生産指数に持ち直しが見られるなど、改善の兆しもみられる。

【設備投資】業績好調な企業を中心に、底堅く推移している

○設備投資は、国内金属工作機械受注額が堅調に推移する中、生産能力の拡大等を目的とした投資が増加見通しであるなど、業績好調な企業を中心に好調。

【個人消費】一部に弱さがみられるものの、全体的には回復している

○個人消費は、現金給与総額や実質賃金の改善が続く中で、消費支出が改善し、大型小売店の売上が前年を上回るなど、緩やかに回復しているが、新車販売台数（軽自動車を含む）は前年を下回るなど、一部に弱さもみられる。

【観光】天候に恵まれず、入込観光客数は伸び悩んだ

○観光は、前年と比較し、日の並びの関係で休日の日数が1日少なかったことや、降雪の影響や平均気温が前年を下回るなど天候に恵まれず、入込客数が伸びなかった。

【資金繰り】資金繰りは改善しているが、小規模企業には厳しい状況が継続

○企業の資金繰りは、金融機関の積極姿勢もあり借りやすい状況が継続する中、事故報告件数は前年を下回るなど、全体的に落ち着いているが、倒産件数は前年同時期より増加しており、体力の弱い小規模企業には厳しい状況が継続している。

【雇用】雇用情勢の改善とともに、人手不足感の拡大が継続している

○雇用面は、完全失業率、有効求人倍率、学生就職内定率等の関連指標は、改善が続いており、総じて県内の雇用情勢は着実に改善している。但し、労働需要側である企業においては、人手不足の慢性化とともに、人件費の高まりが収益を圧迫するなど、経営への悪影響が懸念される。